

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F134310109900	設置等組織名	理工学部（生物科学科、情報科学科、建築学科）
大学名	安田女子大学	設置区分	私立	事業計画名	安田女子大学 学部の新設
学校種	大学	都道府県	広島県		

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1	1-①令和2年 8月 理工系学部開設の検討開始 1-②令和3年 9月 「数理・データサイエンス・A1 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」申請検討 開始 1-③令和4年 1月 理工学部開設のための調査開始 1-④令和4年 7月 「数理・データサイエンス・A1 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」認定 1-⑤令和4年 8月 令和7年、理工学部（生物科学、情報科学、建築学）開設計画を決定 1-⑥令和4年10月 理工学部設置準備委員会を設置し、分野ごとに開設計画の具体化（施設設備）を協議開始 1-⑦令和4年12月 理工学部開設のための施設見学会を実施（近畿大学、摂南大学、東京農業大学） 1-⑧令和5年 4月 理工学部構想計画について公表し、各学科の教員の公募開始 1-⑨令和5年 7月 認知向上のための理工学部特設サイト開設やWEB広告等の広報活動を開始 1-⑩令和5年 8月 オープンキャンパスにおいて理工学部ブースを設置し、体験や資料の配付等で認知興味の上をを図る 1-⑪令和5年 9月 高校1～2年生担当教員対象の大学説明会を開催 ※高校生の文理選択前に高校教員に事業計画の理解を促すため、6月に前倒して開催 1-⑫令和5年 9月 ニーズ調査開始 ※学生の確保の見通し等を記載した資料作成の手引（R7開設用） 令和 5 年 6 月 9 日更新版を参照し、8月20日のオープンキャンパスで前倒して調査を実施 1-⑬令和6年 3月 理工学部開設関連情報を更新し、興味・関心の向上を図る	1-⑧令和5年 4月 理工学部構想計画について公表し、各学科の教員の公募開始 1-⑨令和5年 7月 認知向上のための理工学部特設サイト開設やWEB広告等の広報活動を開始 1-⑩令和5年 8月 オープンキャンパスにおいて理工学部ブースを設置し、体験や資料の配付等で認知興味の上をを図る 1-⑪令和5年 9月 高校1～2年生担当教員対象の大学説明会を開催 ※高校生の文理選択前に高校教員に事業計画の理解を促すため、6月に前倒して開催 1-⑫令和5年 9月 ニーズ調査開始 ※学生の確保の見通し等を記載した資料作成の手引（R7開設用） 令和 5 年 6 月 9 日更新版を参照し、8月20日のオープンキャンパスで前倒して調査を実施 1-⑬令和6年 3月 理工学部開設関連情報を更新し、興味・関心の向上を図る	R5年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
フェーズ2前				
認可申請又は届出	令和6年 3月 理工学部 生物科学科、情報科学科、建築学科 設置認可申請予定	令和6年 3月15日 理工学部 生物科学科、情報科学科、建築学科 設置認可申請		
フェーズ1進捗		1-⑭令和6年 3月～令和7年3月 理工系分野、各学科の認知拡大に向けたパンフレット作成（R6.1.22承認）	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
フェーズ2	2-①令和4年10月 理工学部設置準備委員会を設置し、分野ごとに開設計画の具体化（施設設備）を協議開始 理工学部棟建設のための宅地開発の申請着手 2-②令和5年 1月 理工学部棟建設計画の概要(工事提案要領)を決定 2-③令和5年 2月 造成工事業者選定 2-④令和5年 5月 理工学部棟建設予定地の造成工事開始 2-⑤令和5年 5月 理工学部棟建設フロア・ポル実施、建設業者選定、実施設計着手 2-⑥令和6年 4月 理工学部各学科サイト開設し、カリキュラム・施設等の詳細計画 2-⑦令和6年 5月 理工学部棟の建設施工 2-⑧令和6年 7月 理工学部設置認可による学生募集活動開始 2-⑨令和6年 7月 オープンキャンパスにおいて各学科ごとにブースを設置し、興味関心を向上させ出願を促す 2-⑩令和6年 8月 開設前着任教員による高大連携公開講座を提供	2-④令和5年 5月 理工学部棟建設予定地の造成工事開始 2-⑤令和5年 5月 理工学部棟建設フロア・ポル実施、建設業者選定、実施設計着手 2-⑥令和6年 4月 理工学部各学科サイト開設し、カリキュラム・施設等の詳細計画 2-⑦令和6年 5月 理工学部棟の建設施工 2-⑧令和6年 7月 理工学部設置認可による学生募集活動開始 2-⑨令和6年 7月 オープンキャンパスにおいて各学科ごとにブースを設置し、興味関心を向上させ出願を促す 2-⑩令和6年 8月 開設前着任教員による高大連携公開講座を提供	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
開設又は定員増	令和7年 4月 理工学部 生物科学科 開設予定（入学定員60人、理学関係） 理工学部 情報科学科 開設予定（入学定員60人、工学関係） 理工学部 建築学科 開設予定（入学定員60人、工学関係）	令和7年 4月 理工学部 生物科学科 開設予定（入学定員60人、理学関係） 理工学部 情報科学科 開設予定（入学定員60人、工学関係） 理工学部 建築学科 開設予定（入学定員60人、工学関係）		
フェーズ2後	2-⑪令和7年 9月 理工学部棟竣工、設備・備品納入			
フェーズ3	3-①令和7年 4～12月 多様な学生募集のためのWEB広報 3-②令和7年 4月 理工系分野、各学科の認知拡大に向けたパンフレット作成（学年進級に伴う内容更新） 3-③令和7年 4月 理工系分野、各学科の認知拡大に向けたパンフレット作成（学年進級に伴う内容更新） 3-④令和7年 4～12月 多様な学生募集のためのWEB広報 3-⑤令和7年 4月 理工系分野、各学科の認知拡大に向けたパンフレット作成（学年進級に伴う内容更新） 3-⑥令和7年 4～12月 多様な学生募集のためのWEB広報 3-⑦令和7年 4月 理工系分野、各学科の認知拡大に向けたパンフレット作成（学年進級に伴う内容更新） 3-⑧令和7年 4～12月 多様な学生募集のためのWEB広報			
定員減又は学部等の廃止	令和6年 4月 文学部 英語英米文学科 入学定員40人減員に係る届出予定（入学定員70人、編入学定員2人、文学関係） 教育学部 児童教育学科 入学定員90人・編入学定員2人減員に係る届出予定（入学定員60人、編入学定員1人、教育学・保育学関係） 現代ビジネス学部 現代ビジネス学科 入学定員10人減員に係る届出予定（入学定員80人、編入学定員1人、経済学関係） 現代ビジネス学部 国際観光ビジネス学科 入学定員10人減員に係る届出予定（入学定員80人、編入学定員1人、経済学関係） 家政学部 生活デザイン学科 入学定員40人減員に係る届出予定（入学定員120人、編入学定員2人、家政関係） 短期大学 保育科 学生募集停止予定（入学定員150人、教育学・保育学関係）	令和6年 4月 文学部 英語英米文学科 入学定員40人減員に係る届出（入学定員70人、編入学定員2人、文学関係） 教育学部 児童教育学科 入学定員90人・編入学定員2人減員に係る届出（入学定員60人、編入学定員1人、教育学・保育学関係） 現代ビジネス学部 現代ビジネス学科 入学定員10人減員に係る届出（入学定員80人、編入学定員1人、経済学関係） 現代ビジネス学部 国際観光ビジネス学科 入学定員10人減員に係る届出（入学定員80人、編入学定員1人、経済学関係） 家政学部 生活デザイン学科 入学定員40人減員に係る届出（入学定員120人、編入学定員2人、家政関係） 短期大学 保育科 学生募集停止（入学定員150人、教育学・保育学関係）		

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	安田女子大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和5年度の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の特組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	安田女子大学
-------------	-------	-----	--------

②

計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

③

選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した

☒ チェック

④

文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない

☒ チェック

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- ☒ チェック a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☒ チェック b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- ☐ チェック c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
専門知識・技術を基盤とした創造力・コミュニケーション力・課題解決力など社会での実践力養成を目的に、各学科に関連する深い企業・自治体等と連携し、学生独自の視点でニーズを収集し解決に取り組む連携プロジェクト(PBL)の展開を計画している。具体的には、 生物科学科 では地域の農林漁業者や食品産業（食品製造業、醸造業、食品流通業、フードサービス業など）、バイオ・医薬・環境アセスメント関連企業、都道府県や市町村の職員、協同組合の職員、学内外の研究機関等との協働による商品開発や協働研究、 情報科学科 ではデジタルメディア、ヒューマンインターフェース、データサイエンスの3分野横断型のチームを組み行政や企業との連携プロジェクトを展開、 建築学科 では、自治体との連携によりフィールドワークを通して独自の視点で地域のニーズを収集し、必要に応じて他学科や地域・企業と協働することで総合的な提案力を実践する予定である。個別の協定締結や共同研究の開始に向けた連携は、 フェーズ1～2 期間中（2025年4月の資料開設時まで） 以上行予定である。 関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施については、「教育ネットワーク中国」を介して 単位互換制度を積極的に活用し、近隣・同分野の他大学との連携を推進し る予定である。	企業や自治体と連携した科目（PBL等）を各学科にて計画し設置認可申請中である。具体的には、 生物科学科 では学内外との協働を前提とした産官学連携プロジェクト型学修で、食品の安全性、資源の持続可能な利用、環境保全などの課題に取り組む科目【 協働プロジェクトⅠ・Ⅱ 】、 情報科学科 では行政・企業と行う社会連携プロジェクトに学科で取り扱う「デジタルメディア」「ヒューマンインターフェース」「データサイエンス」の3分野横断型チームで臨む科目【 分野横断プロジェクトⅠ・Ⅱ 】、 建築学科 では産官学連携を通して、都市・建築でのフィールドワーク（グループワーク）を行い、そこで収集された情報から新しい創造的まちづくりの方法を模索する科目【 建築フィールドワーク 】を計画している。 個別の協定締結としては、 株式会社サカタ、独立行政法人酒類総合研究所、農林水産省、広島県株式会社、株式会社モルテン、マイクログリモリレーション等と連携協定に関する協議を開始した。 なお、2025年5月8日、 株式会社サカタ、独立行政法人酒類総合研究所 とは 連携協定の締結が実現 している。 関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施については、計画通り学部開設とあわせて「教育ネットワーク中国」を介した 単位互換制度の積極的活用、近隣・同分野の他大学との連携を予定し、設置認可申請中 である。	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ☒ チェック a.入学者選抜における科目の見直し
- ☒ チェック b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- ☒ チェック c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- ☒ チェック d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキングへの対応）
- ☐ チェック e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
多様な入学者の確保に向けた最終的な取組計画については、フェーズ1 期間中（2024年3月の設置認可申請まで）に行う予定である。 入学者選抜における科目の見直しについては、 理工学部設置により理系の新たな志願者層に受験を促すために、受験科目に「情報」の導入を検討 している。情報教育は2022年度までに小・中・高校ととも学習指導要領のもとに全面実施されており、受験科目に「情報」を追加することによって、将来的に理系志願者が増加し、特に 情報科学科の志願者増 に貢献すると想定している。また、 生物科学科、情報科学科、建築学科 とともに、先にも述べた義務教育終了時点の 理数リテラシーの高い文系学生に受験を促すために文系科目による受験 を検討している。 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組 については、高い理数リテラシーを有した潜在的な理系女子高校生に科学技術面と機械の「 女子中高生の理系進路選択支援プログラム 」に 応援し 、更に従前のオープンキャンパスとは別に 理工系女子志願者増を目的とした学生募集イベントRIKOFEST を計画、学外からゲストを招聘し、特別講演会やトークイベントの開催、理工系分野に関連する体験型プログラム（ホディブルフューチャーを用いたワークショップ、AR技術やドローン等の体験プログラム、建築模型などの制作体験）を企画している。なお、同イベントは2025年4月27日に初回が実現しており、同年も複数回を実施する予定である。 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）については、計画通り、 高大連携公開講座の開催や初等中等教育機関への出張講義、分野別説明会を実施 した。初等中等教育機関での分野別説明会においては、女子生徒だけでなく男子生徒も参加しており、シシダンに関係なく理系人材の需要や有望性、学習領域に関して周知した。 社会人学生の受入れ強化に向けた取組についても、 理工学部では計画通り社会人特別選抜の導入を予定し、設置認可申請中 である。	入学者選抜における科目の見直しについては、計画通り、理工学部設置により理系の新たな志願者層に受験を促すために、 受験科目に「情報」の導入 を予定し、加えて 総合型選抜および一般選抜においては、国語・英語・数学・理科・情報の5教科から2教科選択制にすることで、理数リテラシーの高い文系学生にも受験を促すことができるように計画して設置認可申請中 である。 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組については、高い理数リテラシーを有した潜在的な理系女子高校生に科学技術面と機械の「 女子中高生の理系進路選択支援プログラム 」に 応援し 、更に従前のオープンキャンパスとは別に 理工系女子志願者増を目的とした学生募集イベントRIKOFEST を計画、学外からゲストを招聘し、特別講演会やトークイベントの開催、理工系分野に関連する体験型プログラム（ホディブルフューチャーを用いたワークショップ、AR技術やドローン等の体験プログラム、建築模型などの制作体験）を企画している。なお、同イベントは2025年4月27日に初回が実現しており、同年も複数回を実施する予定である。 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）については、計画通り、 高大連携公開講座の開催や初等中等教育機関への出張講義、分野別説明会を実施 した。初等中等教育機関での分野別説明会においては、女子生徒だけでなく男子生徒も参加しており、シシダンに関係なく理系人材の需要や有望性、学習領域に関して周知した。 社会人学生の受入れ強化に向けた取組についても、 理工学部では計画通り社会人特別選抜の導入を予定し、設置認可申請中 である。	

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	安田女子大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度の 取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な資質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	安田女子大学
-------------	-------	-----	--------

⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。		
	計画通りに進んでいる	■ チェック	
⑬	選定された大学は、公費要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第16条の3に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）に基づき機構が実施する会議に参加すること。		
	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	■ チェック	
⑭	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。		
	認定を受けておらず申請する意向もない	■ チェック	

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- ☒ チェック
- a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☒ チェック
- b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- ☐ チェック
- c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
専門知識・技能を基盤とした創造力・コミュニケーション力・課題解決力など社会での実践力養成を目的に、各学科に関連の深い企業・自治体等と連携し、学生独自の視点でニーズを収集し解決に取り組む連携プロジェクト(PBL)の展開を計画している。具体的には、 生物科学科 では地域の農林漁業者や食品産業（食品製造業、醸造業、食品流通業、フードサービス業など）、バイオ・医薬・環境アセスメント関連企業、都道府県や市町村の職員、協同組合の職員、学内外の研究機関等との協働による商品開発や協働研究、 情報科学科 ではデジタルメディア、ヒューマンインターフェース、データサイエンスの3分野横断型のチームを組み行政や企業との連携プロジェクトを展開、 建築学科 では、自治体との連携によりフィールドワークを通して独自の視点で地域のニーズを収集し、必要に応じて他学科や地域・企業と協働することで総合的な実践力を養う予定である。個別の他分野と協働や他分野との連携に向けた連携は、 フェーズ1～2 期間中（2025年4月の学科開設時まで）に行う予定である 。関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施については、「教育ネットワーク中国」を介して 単位互換制度を積極的に活用し、近隣・同分野の他大学との連携を進め る予定である。	理工学の知識・技能を基盤とした社会での実践力養成を目的に、各学科において企業・自治体等との連携プロジェクト(PBL)を計画し、令和6年3月に設置認可申請を行い、計画通り令和7年4月に学部開設となった。具体的には、 生物科学科 において、食品の安全性、資源の持続可能な利用、環境保全などの課題に取り組む科目【 協働プロジェクトⅠ・Ⅱ 】 Ⅲ 【 3年前期・後期 】を配置し、学内外との協働を前提とした学修を推進する。 情報科学科 においては、「デジタルメディア」「ヒューマンインターフェース」「データサイエンス」の3分野を横断するチーム編成により、行政・企業と連携して社会課題に取り組む科目【 分野横断プロジェクトⅠ・Ⅱ 】 Ⅲ 【 3年前期・後期 】を配置した。 建築学科 においては、都市・建築分野でのフィールドワークを通して、産学官連携の基となる創造的まちづくりの方法を模索する科目【 建築フィールドワークⅠ 】 Ⅱ 【 4年後期 】を配置した。今後は、これらの科目を通じて地域・社会との連携を一層強化し、学生の実践的な学びの深化を図っていく。個別の連携協定については、令和6年度、食・農産・環境・農業等に関わる分野の研究・教育活動、イベント・ランの創出および地域社会の振興と発展、理系人材の育成に繋がるAI関連プログラム等に寄与することを目的に、 酒造総合研究所(令和6年5月) 、 株式会社サタケ(令和6年5月) 、 農林水産省中国四国農政局(令和6年7月) 、 広島県観光連盟(令和6年1月) 、 広島県(令和6年12月) との連携協定の締結が実現した。関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施については、計画通り【 教育ネットワーク中国 】を介した 単位互換制度の積極的活用、近隣・同分野の他大学との連携 を計画し、令和6年3月に設置認可申請を行い、計画通り令和7年4月に学部開設となった。	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ☒ チェック
- a.入学者選抜における科目の見直し
- ☒ チェック
- b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- ☒ チェック
- c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- ☒ チェック
- d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキングへの対応）
- ☐ チェック
- e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
多様な入学者の確保に向けた最終的な取組計画については、フェーズ1 期間中（2024年3月の設置認可申請まで）に行う予定である。 入学者選抜における科目の見直しについては、 理工学部設置により理系の新たな志願者層に受験を促すために、受験科目に「情報」の導入を検討 している。情報教育は2022年度まで小・中・高校ととも学習指導要領のもとに全面実施されており、受験科目に「情報」を追加することによって、将来的に理系志願者が増加し、特に 情報科学科の志願者層 に貢献すると想定している。また、 生物科学科、情報科学科、建築学科 ともに、外にも活ぶべき義務教育終了時点の 理数リテラシーの高い文系学生に受験を促すために文系科目による受験 を検討している。 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組 については、高い理数リテラシーを有した潜在的理系女子高校生に科学技術興機構の「 女子中高生の理系進路選択支援プログラム 」やそれと同様の高大連携プログラムを企画検討中である。特に高校時の文理選択で文系選択のバリエーションがそれと前年から参加可能な企画とする予定である。特に出口（就職）を意図した各分野の社会で活躍する研究者や起業家、NPO団体など（生物科学科：バイオベンチャー起業家、情報科学科：デジタルコンテンツ制作会社、建築学科：女性建築家など）を招へんし、各分野の学びの楽しさや将来性などを女子中高生に知ってもらふ取組を検討中である。 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）については、高大連携公開講座の開催や初等中等教育機関への出張授業やその 教員への教育実習交流機会 などを計画している。また開催方式も対面形式だけでなく大学の接続機会が少ない山間部地域の学校のためオンライン形式も選択できるように講義内容を検討し、女子生徒だけでなく男子生徒も各分野に親れる機会を提供することでエシエンダーに関係ない幅広い年齢層に向けて理系人材を裾野を広げる計画（生物科学科：植物とこころの科学（食糧品学）、演習林で行う自然観察教室、情報科学科：初等中等教育機関の情報教員向けオンデマンド講座、夏休み工作＆プログラミング教室、建築学科：身近な物でDIYリノベーション講座、地元建築物探訪など）である。 社会人学生の受入れ強化に向けた取組 については、理工学部では 社会人特別選抜の導入 を計画しており、生涯にわたって新たな学びを学び、スキルを磨き続けることのできる環境整備に努める。	入学者選抜における科目の見直しについては、理工学部設置により理系の新たな志願者層に受験を促すために、 受験科目に「情報」を導入し、加えて総合型選抜および一般選抜においては、国語・英語・数学・理科・情報の5教科から2教科選択制にすることで、理数リテラシーの高い文系学生にも受験を促すことができるようにした 。 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組については、高い理数リテラシーを有した潜在的理系女子高校生に科学技術興機構の「 女子中高生の理系進路選択支援プログラム 」に応援し、さらに従前のオープンキャンパスとは別に 理工系女子志願者増を目的とした学生募集イベントRikoPlus を実施。令和6年4月27日、6月16日、7月20日、7月21日、8月17日、8月18日、9月15日(金)7回開催し、多くの受験生・保護者が来場した。同イベントでは、学外からゲストを招明し、特別講演会やトークイベントの開催、理工系分野に関連する体験型プログラム（エディブルフラワーを用いたワークショップ、AR技術やドローン等の体験プログラム、建築模型などの制作体験）を展開するなど、各分野の学びの楽しさや将来性などを広く伝え、理解を深めてもらうことを目的とした。 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）については、計画通り、 高大連携公開講座の開催や初等中等教育機関への出張講座、分野別説明会を実施 した。初等中等教育機関での分野別説明会においては、女子生徒だけでなく男子生徒も参加しており、エンダーに関係ない理系人材の需要や有望性、学習領域に関して周知した。 社会人学生の受入れ強化に向けた取組についても、 理工学部では計画通り社会人特別選抜を導入した 。	

大学名	安田女子大学
-----	--------

1. 本事業対象となる学部等の状況

<合計>

[illegible]

大学名	安田女子大学
-----	--------

2.理・工・農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

[illegible]

大学名	安田女子大学
-----	--------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1345	1345	1465																
		入学者数	人	1232	1267	1469																
	その他の学期	入学定員	人	***	***	***																
		入学者数	人	***	***	***																
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,345	1,345	1,465																
		入学者数(B)	人	1,232	1,267	1,469																
		入学定員充足率 (B/A)	倍	0.92	0.94	1.00																
	収容定員等	収容定員(C)	人	5546	5622	5742																
		編入学定員	人	18	18	18																
		在籍者数(D)	人	5292	5311	5447																
		編入学者数	人	3	0	5																
		収容定員充足率 (D/C)	倍	0.95	0.94	0.95																

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況			選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定－1年	選定		開設			完成年度								
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		34,145	29,650	29,220	28,390	34,419	34,124	64,576												

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）（E）	千円	31,005
本事業による助成金の額(F)	千円	2,569,999
フェーズ3の助成期間終了時まで達成する額(E+F×2.5%)	千円	95,255

特記事項